

令和4年10月27日

瑞穂市長 森 和之 様

「瑞穂市第2次総合計画にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」について（答申）

瑞穂市総合計画等評価審議会

会長 曾我部 雄樹



令和4年8月25日付け瑞政第47号にて諮問のありました「瑞穂市第2次総合計画にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画にもとづく事業評価（令和3年度実施分）」について、本審議会により慎重かつ厳格な審査を重ねた結果、以下の結論に至ったことをご報告申し上げます。

#### 答 申

瑞穂市総合計画等評価審議会では瑞穂市より諮問を受け、令和3年度に実施された「瑞穂市第2次総合計画」にもとづく8事業、「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもとづく1事業および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生推進計画」にもとづく1事業の計10事業について評価を行い、すべての事業で有効であったと結論に至った。

審議会では10事業のうち9事業で「有効であった」が90%を超え、また4事業では「有効であった」が満場一致であった。これらは瑞穂市の市政が市民から受け入れられていることを表している。

瑞穂市の人口は2025年頃まで増加し、その後は減少するものと見込まれており、それをうけて平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立した。こうした背景を踏まえ、平成26年12月に国が策定した、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後5年間の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、市の実情を踏まえた、瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（「瑞穂市人口ビジョン」及び「瑞穂市総合戦略」）を策定した。

瑞穂市の人口減少を克服するための施策をまとめた「瑞穂市総合戦略」である

が、現状はコロナ過における影響を大きく受けており、これらに対応をしている森市長を初め市職員の努力と試みには敬服する。

瑞穂市で増加した人口は他市からの流入であり、若い子育て世代である。人口減少を克服するためには今までの施策に加え、それらの住民が長く定住できる施策をとる必要があり、今までと異なる考え方を求められる。本審議会では種々議論が行われたが、どの意見も市政に対する期待が込められている。これらの意見を尊重し、より多くの市民が満足する事業の推進を望む。

